

腐植(フルボ酸・フミン酸)の定量分析

水系腐植、土壤系腐植、製品中のフルボ酸含有量など、さまざまな試料中のフルボ酸・フミン酸の定量分析に、総合的に対応します。

【腐植物質とは】

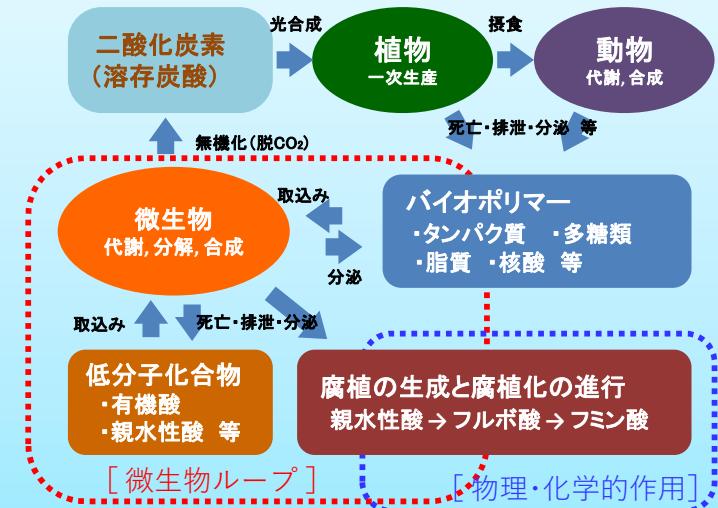
<腐植物質の生成>

腐植物質とは、光合成により作られた有機物が、[微生物ループ]や[物理・化学的作用]の過程を経て分子構造が変化した結果、黄～茶褐色の着色や特有の蛍光特性をもつようになった「物質群の総称」です。

<分子構造>

腐植物質は、分子量数百以上の多価カルボン酸であり、脱炭酸・脱メタン・脱水の進行によって、親水性酸、フルボ酸、フミン酸に変化していきます。

有機物循環と腐植



【分類、分離・分画】

<分類>

腐植物質の分類は、樹脂吸着特性や酸・アルカリへの溶性により分類されています。

腐植物質の一般的な分類

アルカリ溶性	酸溶性	DAX-8吸着	名称	備考
可溶	可溶	非吸着	親水性酸 Transphilic酸	親水性フルボ酸ともいう TransphilicはXAD-4に吸着
		吸着	フルボ酸	—
	不溶	吸着	フミン酸	—

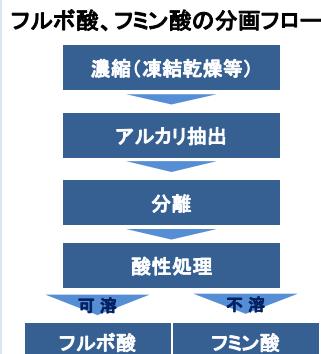
DAX-8:疎水性有機物を吸着するアクリルエスチル樹脂(中極性)。Spelco社製。
Transphilic:疎水性と親水性の中間の性質を示す

<前処理>

水系:濃縮・脱塩等の精製
土壤・底質系:アルカリ抽出

<分離・分画>

酸・アルカリによる溶性を利用して、フルボ酸とフミン酸を分画します。必要に応じて、樹脂精製を行います。



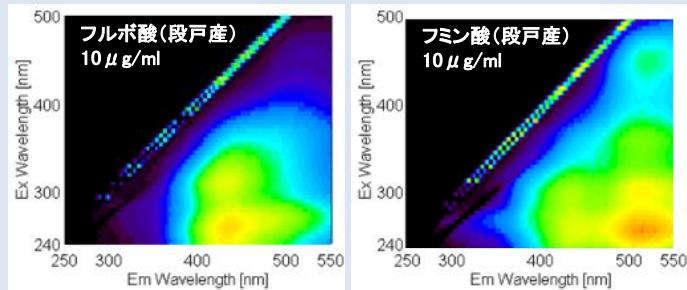
この他にも、生分解過程における腐植の生成試験、LC/MSによる分解過程追跡試験等、お客様のご相談にお応えします。

【定量】

<光学的特性による定量>

フルボ酸・フミン酸分子特有の蛍光特性を利用し、三次元蛍光法(EEM)で得られた蛍光強度を、硫酸キニーネや標準腐植により規格化して定量します。

三次元蛍光法(EEM)による測定例



※段戸産フルボ酸、フミン酸は、日本腐植物質学会が発布する標準物質
※三次元蛍光法と共に、全有機炭素量(TOC)や吸光度法により補足的な測定も実施します。

【分子量測定とキャラクタリゼーション】

腐植物質の分子量や分子構造は、生成過程により様々です。GPC分析による分子量測定や、赤外吸光(FT-IR)分析による官能基分析、核磁気共鳴(NMR)分析による分子構造解析にも対応しています。